

図書館だより

'00.7

館長就任雑感

高橋雅晴（英語文化学科）

4月から図書館の仕事に関わることになった。まず図書館の職員会議で話題の中に出てくる用語に戸惑ったり、事あるごとにまるで新人研修生のように館内のことを教えてもらっている。有り難いことに前図書館長から「業務引継ぎリスト」を受け取り、それを絶えず手元に置き、図書館業務を勉強している毎日である。

今年度は図書館に関して各種の工事が予定されている。来年、校舎「新棟建設のあとの地下食堂が書庫に転用」される予定となっているが、それに伴う工事があり2階閲覧室のカウンターの移設が本年8～9月に、地下食堂に集密書架の設置工事が12月に行われる。そのため図



ライプツィヒ大学図書館（1773年築）

『ヨーロッパの歴史的図書館』より
ヴィンフリート・レーシェブルク著 国文社 1994
本館 0102-L89

目次

館長就任雑感 1 高橋雅晴	新任スタッフ紹介 8
花川館リニューアルオープン 3	お知らせ 9
杉原千畝に学ぶ 5 Sr.木村晶子	夏休みの図書館 10

書館職員の仕事は今まで以上に多忙を極めることが予想されるが無事作業が完了するように願っている。この件で図書館及び食堂利用に一時期支障が出てくるが、利用者のご理解を頂きたい。

なお報告すべきことがいくつかある。既刊「図書館だより」や、「Fuji-Lib/Guide 2000」等で案内の通り「道内私大図書館相互利用サービス」により道内の他の私大8大学との相互利用サービスがすでに始まっている。このように他大学などとのネットワークが拡大する傾向があるので、この面での対応も考えて行かなければならない。それから「図書館オリエンテーション」についても触れておきたいと思う。従来4月に行われていた新入生対象の図書館オリエンテーションは今年度から新しい試みとして学生が大学生活に少し慣れてきた時期が選ばれ、5月9日から23日にわたり本館、花川館あわせて各学科2回から4回、計13回にわたり綿密な計画のもとに行われた。図書館員の人達のかかなりの労力を必要としたが、周到な準備と熱心な指導のもとに実施された結果、新入生には大変好評であり、ガイダンスの目的を十分に果たしたと思われる。

ところで図書館利用のことについて述べてみたいと思う。たとえば複数の人が図書館で

勉強しようとする、どうしても近隣の人に話し掛けたくなるものである。

(この辺の事情はアメリカの大学図書館でも同じで、以前訪問した図書館の入り口の大きな柱に黒板1枚分の掲示で次のように記されていたのを記憶している。

'BE QUIET!/Library is not the place to talk. Please socialize elsewhere.')

幸い今回、花川館のスペースが拡充され、それに伴い 'Study Room' ができ(本館にもいずれ「グループ学習室」という形で) discussion のスペースが確保されて、利用する学生にも喜ばれることと思う。このことにより閲覧室の静粛がより確保されるであろう。

また同じアメリカの図書館内に利用者の図書館に対する希望や苦情などが書かれたメッセージが掲示板にピンで止められ、数日後に図書館側の、時にユーモラスな回答が貼られており、当時は図書館に行くとき必ず掲示板の前を通り、そのやりとりを見て楽しませてもらった。このように利用者の声を反映したり、他に快適な利用ができるアイデアがあれば教職員・学生の皆さんからお知恵を拝借したい。検討して実現していきたいと思う。

花川館

リニューアルオープン



■ 広くなった3F 閲覧室

3F 閲覧室が学長室よりに1室が、廊下を挟んで3室が図書館スペースとして広がりました。階段を上がって奥を見ると「ワー遠い」そんな言葉を書きました、立ち並ぶ書架に、閲覧机、確かに奥が広がったという印象でしょうか。保育学科の新設に伴っての増設です。

書架は109連、新着雑誌架2台、閲覧机(4人掛け)3台、キャレル(個席)14台、延べ面積はそれまでの約1.26倍、書架の収容能力は約1.3倍になりました。また、階段と閲覧室の間にはドアがつき、冬季間の冷たい風などが防げるようになりました。通常は開け放してあります。

資料は、保育学科新設のために購入されたもの1800冊、そして短大保育科の引っ越しと共に本館より移された資料が約1万冊、

特に幼児教育や音楽、工芸、心理学等の図書と雑誌が移されました。皆さんも、もう気づいているでしょうか?可愛い雑誌や絵本が増えていることを。でも、ご覧のように増設された書架はほとんど資料で埋まってしまいました。それでも多少の余裕ができたのはうれしい限りです。現在は約6万3千冊の図書と、約500タイトルの雑誌を所蔵していますが、今後も増加していくことが予想されます。

これらの資料の充実にあわせて、利用時間も長くなりました。月曜日から金曜日までが9時30分から19時まで、土曜日が15時までと、水曜日・土曜日とも1時間の開館時間延長となりました。どうぞご利用ください。

このほか、10人程度が入れる小さなグループ学習室ができました。図書館の資料を使って少人数で勉強するときなどに気軽に利用

してください。受付は貸出カウンターで行っています。

■ ワープロ・パソコンの持ち込みが可能に

閲覧機の増設に伴って携帯用のワープロやパソコンの使用が可能になりました。

3階奥にリーラーコンセントが下がっている机が4台あります。図書館でのレポートや論文の作成に便利になりました。

また、キャレルデスクではそれぞれ照明がつき、自分の部屋の机と同じように隣の人を気にせずに勉強することができます。

■ AV資料とインターネットの利用

これだけ資料が増えても利用者の皆さんのニーズ全てに応えることはとうてい不可能です。そこで資料の不足を補うためにAV資料(ビデオ、LD、DVD、CD-ROM等)やインターネットの利用を積極的に行っています。

特に、インターネットでは多くの有料データベースがあり、図書館ではその中から、新聞記事の検索が可能な“DNA(朝日新聞)”や“日経テレコン(道新、読売等)”を、雑誌記事の検索には“Nichigai-web”を契約して提供しています。

このほか他大学図書館の所蔵検索や国立情

報学研究所のデータベース検索など多くの有効なデータベースが存在します。著作権に注意しながら上手に利用してください。

また、CD-ROMには雑誌記事索引、HI-ASK、Bunsokuなどのデータベース検索のものと、雑誌や図書に付属するもの、さらに、NHKきょうの料理や日本国勢図会等の本体がCD-ROMとして出版されたものなどがあります。今後さらに増加していくと思われまますので、十分な利用ができるよう図書館でもさらに機器の充実を考えています。

今年は、夏頃にインターネット端末が2台、CD-ROM専用端末が1台増設されます。ご期待ください。

■ 大学図書館相互利用サービス

道内の私立大学8大学間(旭川大学・札幌大学・札幌学院大学・藤女子大学・北海道医療大学・北海道工業大学・北星学園大学・酪農学園大学)で、共通閲覧証の発行により、各館の閲覧・貸出・複写等、所属の学生なみのサービスを受けることができるようになりました。貸出カウンターで手続きしてください。

杉原千畝に学ぶ

Sr. 木村晶子 (人間生活学科)



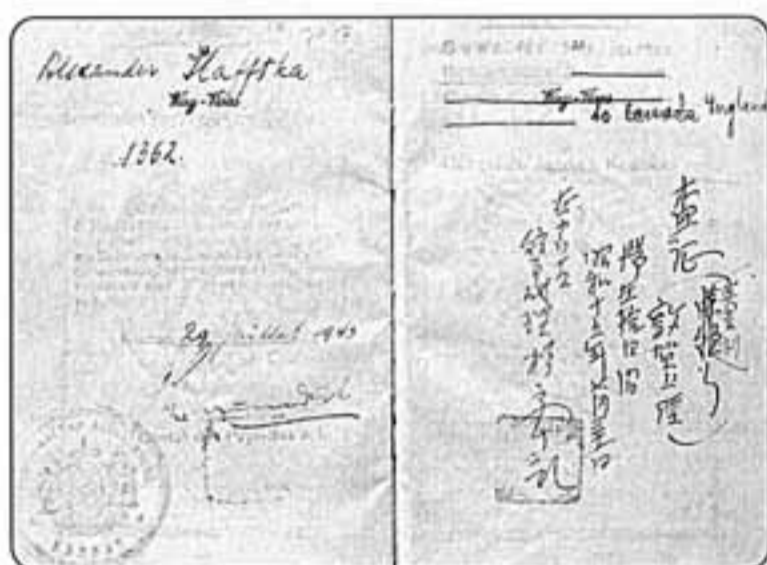
『千畝：一万人の命を救った外交官杉原千畝の謎』
ヒレル・レビン著

最近私が最も関心を持っている人物の中に、杉原千畝がいる。彼は第二次大戦時リトアニア領事代理をしていた折に6千人ものユダヤ人の命を救ったが、近年ようやくその事実が日本国内でも知られるようになり、彼の功績が評価されるようになった。しかし、それはすべて、千畝の死後のことである。

杉原千畝は1900年1月1日、岐阜県八百津町に生まれた。小学校から成績は抜群で、特に英語が得意で将来は英語の教師になりたいという夢を持っていた。しかし、税務署員であった父は千畝が医者になることを希望し、当時父が勤務していた京城(ソウル)の医学専門学校を受験することとなった。しかし、千畝は自分の夢を捨てきれず、受験の際白紙答案を出し、わ

ざと不合格となった。それが父の怒りに触れ、彼は勘当となってしまった。仕方なく千畝は、自分で学費を稼ぎながら、早稲田大学高等師範部英語科に通い始めたが、二年目には学費がなくなり、彼は窮地に陥ってしまった。しかし、ある時途方にくれていた千畝に思いがけないチャンスが巡ってきたのである。それは、「外務省留学生」の公募である。もしこの試験に合格すれば、米・英・仏以外の外国語を無償で三年間学び、その後は外交官になれるというものであった。千畝はわずか一ヶ月あまりの期間に法律や経済などの試験科目も勉強し、見事に合格したのである。外務省留学生となった千畝は、当時の状況からロシア語の必要性を感じ、満州のハルビン学院に学ぶこととなった。在学中、彼の天才的語学力が発揮され、わずかの期間にロシア語をマスターしてしまった。その後大正13年にハルビンの日本領事館ロシア係に就任し、彼の才能と活躍はますます認められ、昭和9年には政務局ロシア課長兼計画課長に任命された。この時点までは彼はまさしく出世街道を歩んでいたのである。ところが、昭和10年、千畝は突然自ら満州国外交部を去った。その理由を彼は晩年、次のように述べている。「若い職業軍人が、狭い見地で事を運び、無理強いしているのを見て、いやになったので、本家の外務省へのカムバックを希望して、東京に帰りました。」(『決断・命のピザ』より) 当時満州では、関東軍が横暴の限りを尽くしており、中国

人は人間扱いされていなかった。千畝はその残酷な光景を見て、日本軍のやり方にはとてもついてはいけないと思ったのである。ここにすでに彼の博愛精神を窺うことができる。そして、それが後に6千人のユダヤ人の命を救うという決断へとつながってゆくのである。



【千畝：一万人の命を救った外交官杉原千畝の謎】より

満州国外交部を辞任した千畝は、帰国し、友人の妹である菊池幸子と結婚する。それからしばらくして外務省に復帰した。しかし、帝国大学の学閥で占められていた本国の外務省においては、千畝の出世は閉ざされていた。彼の語学力は単にヨーロッパ情勢を知るためのスパイ活動の目的に活用されることとなる。昭和11年、モスクワ大使館勤務を任せられたが、ソ連の入国拒否のためヘルシンキ公使館に勤務する。そして、昭和14年、リトアニア日本領事館領事代理を命じられ、一家はカウナスへ移ることになる。そこで大勢のユダヤ人難民と出会うことになるのである。この時期、ナチスによるユダ

ヤ人迫害はますますひどくなり、ポーランドに住んでいたユダヤ人が大量にリトアニアに流れ込んでいた。しかし、ナチスのヨーロッパ封鎖は厳しく、ユダヤ人がヨーロッパを脱出する手段はたった一つしか残されていなかった。それは、シベリアを通して日本を通過し、唯一ユダヤ難民を受け入れていたオランダ領西インド諸島のキュラソー島に向かうことだった。そのためには、ソ連の通過ビザと日本の通過ビザ、そしてオランダ大使館が発給するキュラソー・ビザの3種類が揃っていなければならなかったのである。そこで、毎日何百人ものユダヤ人がリトアニア日本領事館へと押しかける結果となったのであった。

当時日本政府は人種差別反対を唱えており、ユダヤ人には好意的であった。しかし、ドイツと同盟を結んでいる手前、ユダヤ人救済を表面に出すわけにはいかない。千畝は何度か日本の外務省と交渉し、ビザ発給を許可してもらえるよう要請した。しかし、結果はNOであった。幾日も悩んだ末、千畝はついに決断した。それは「本国外務省と議論してもこれ以上は無駄である。彼らを救うためには独自にビザを発行するしかない」ということだった。こうして、彼は本省の許可なくして、大量のビザを発給することとなったのである。しかし、どんなに頑張っても一日250通あまりしか書けない。時間は刻一刻と迫ってきている。千畝は食事もろくにとらず書き続けたが、夜になるとペンを握れ

なくなってしまう、妻の幸子が一晩中腕をもみ続けたという。一ヶ月後、日本領事館も閉鎖を命じられ、とうとうビザの発行は不可能になってしまった。しかし、ホテルに移った千畝はそこでも、ビザに替わる渡航証明書を書き続けた。そして、ついに杉原一家がカウナスを離れる時が来たが、千畝は汽車が発車するまで書き続けたという。それから、杉原一家はブラハ・ケーニヒスベルグ・ブカレストと転々とし、終戦後はソ連の収容所生活まで強いられることになったのである。苦勞の末、一家は昭和22年やっと帰国することができた。しかし、そこで千畝を待っていたものは、外務省からの免官の知らせであった。理由はユダヤ人を救った「あの件」である。その後、千畝はロシア語を活かせる職を転々とし、最終的には貿易会社に勤務してモスクワ駐在を15年ほど勤める。その間、命を助けられたユダヤ人たちは千畝を必死に捜し続けたが、日本外務省に問い合わせても「該当者なし」の返答を受け取るだけであった。しかし、昭和43年鎌倉に在住していることをつきとめ、やっと千畝との再会が果たされたのである。このとき千畝は自分の行為が正しかったことを確認したに違いない。翌年、彼はイスラエル政府より招待を受け、やはり彼に助けられ、宗教大臣になっていたバルハフティク氏より勲章を受けた。昭和60年イスラエル政府より、オスカー・シンドラーも受けた「諸国民の中の正義の人賞」を受賞する。このとき杉原は「人として

あたりまえのことをしただけです。」と答えたと言う。このことばは千畝の人柄をよく表している。翌昭和61年、千畝は鎌倉にて静かに息を引き取った。86歳であった。

日本政府が公式に杉原に対してコメントしたのは、平成3年、イスラエルを訪問していた中山太郎外務大臣が最初であり、「誇りに思っている」と述べた。同年10月3日には、鈴木宗男外務政務次官が、杉原夫人を外務省に招いて罷免の件について謝罪した。平成4年3月の国会において、政府の杉原に対する「謝罪と顕彰」が求められ、当時の宮沢喜一内閣総理大臣、渡辺美智雄外務大臣らの答弁から、千畝の名誉が回復されたとみなされている。しかし、実際には、それ以外には政府からの公式の「謝罪と顕彰」は行われていない。

このような中で、平成4年8月12日、杉原の故郷である岐阜県八百津町に、彼の功績を称えて、「人道の丘」公園が造られた。そこには千畝の銅像が建てられ、平成6年9月23日、杉原千畝の顕彰式が執り行われた。そのとき、河野洋平外務大臣は「当時の暗い歴史の中の一筋の光として、私たちに希望を与えてくれる。日本の外交の責任者として、私は外交政策の決定では、どんな場合でも人道的考慮が最重要である」と述べている。

こうして、ついに杉原の外交官としての名誉は回復されたとと言えるであろうが、そのこと自体より、すべてのことに優先して正義を貫いた

彼の勇気と決断を称えることが第一であろう。また、外交官を罷免された後も自分の正統性を主張することもなく、「歴史が判断してくれるだろう」とひたすら沈黙を守っていたその潔さは、真の強さであり、美しさであると言えるであろう。今日の日本にあって、私たちは千畝のこのすばらしい精神を語り伝え、日常のなかでほんの少しでも実践してゆきたいものである。

参 考 資 料

『千畝：一万人の命を救った外交官杉原千畝の謎』
ヒレル・レビン著、諏訪澄、篠輝久監修・訳
清水書院 1998
本館 289.1-Su34

『奇蹟の査証（ビザ）：杉原千畝と6000人のユダヤ人』
谷内豊著 フリープレス 1997
本館 913.6-Ta88

『ホロコースト前夜の脱出：杉原千畝のビザ』
下山二郎著 国書刊行会 1995
花川館 913.6-Sh55

新任スタッフ紹介



青木 真代
目録情報係

周囲の方々に支えられ、ようやく仕事にも慣れてまいりました。図書館に勤務することで、今までに手にしたことのなかった本に出会うことができ、毎日感激しております。

これからは図書館業務が円滑に進むこと、また利用される皆さんのもとにより早く本が届くよう努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



渋井 麻衣子
情報サービス係

閲覧室で働き始めて、1ヶ月が過ぎ、図書館の仕事に少しずつ慣れてきました。まだ勉強不足のため、みなさんにご迷惑をおかけすることもあるかと思っております。少しでも皆様のお役に立てればと考えていますので、よろしくお願いいたします。

●●●● お知らせ ●●●●

もう使ってみましたか？

ついに **カラーコピー機** 登場!!

本館入口に
カラーコピー機が
設置されました。



1枚50円です。

CD-ROM 新しく入りました!

<本館> 『江戸名所図会』
『源氏物語（角川古典大観）』
『源氏物語（〔承応版本〕絵入）』
『二十一代集（〔正保版本〕）』
『指導のためのCD-ROM 書道芸術Ⅰ』

<花川館> 『日本国勢図会』
『世界国勢図会』
『理科年表』

どうぞご利用ください!

☀️ 夏休みの図書館 ☀️

- 期 間 8月1日(火)～9月14日(木)
- 開館時間 月・火・木・金 9:30～16:30
水 10:00～16:30
土 9:30～12:30



● 休 館 日

本 館							花 川 館										
		日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土
8	月				1	2	3	4	5				1	2	3	4	5
		6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12		
		13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19		
		20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26		
		27	28	29	30	31			27	28	29	30	31				
9	月						1	2							1	2	
		3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9		
		10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16		
		17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23		
		24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30		

は閉館です

- 長期貸出 7月21日(金)より開始します。
9月21日(木)が返却日です。
9月8日(金)からは通常貸出(2週間)となります。
- 貸出冊数 学生のみ本館資料100冊まで、花川館資料10冊までです。

☆ 本館はカウンター移設工事等に伴い、閉館日が多くなっています。
ご了承ください。

☆ 詳しくは掲示板・配布資料をご覧ください。

藤女子大学 図書館だより 第57号 2000.7
藤女子短期大学

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770